

改定に向けた主な意見

改定に向けた主な意見として、以下の内容を取りまとめた。

- ・ 第3回まちづくり基本方針検討小委員会（10/8）における主な意見
- ・ 上記小委員会に欠席された委員の主な意見

1 改定まちづくり基本方針骨子案について

分類	意見
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標「住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合」では、<u>「地域に満足している」とことと「住み続けたい」ということはイコールではないので、どのような指標を設定すべきか議論の余地がある。</u> ・ 指標「住んでいる地域は高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合」では、<u>高齢者だけでなく障害者も追加することはできないか。</u> ・ 市町職員意識調査は、市町職員に負担をかけるため、<u>明確な必要性や有効性を整理する必要があり、慎重に判断してほしい。</u>
基本コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりにあたって「プライド」のような強い言葉ではなく、「兵庫らしいまちづくり」や「選ばれる兵庫なまち」などの表現が考えられる。 ・ <u>4つの地域の設定とコンセプトとの間に少し距離がある。</u>全ての地域に共通して目指すべきもの（イノベーション、循環、コミュニティ、エネルギー）などのキーワードあるいはそれをそのまま表現してもよい。 ・ <u>守りの部分と攻めの部分が両方大事であり、「プライドとイノベーション」と言うか「保守と創造」と言うかでイメージが全く変わる。</u> ・ <u>多様な暮らし方をいろいろな地域で選ぶことができる点が兵庫県の魅力であり、望む暮らしができるという大きな話を4つの地域に分ける前のところで盛り込めるとよいのではないか。</u> ・ 「選ばれる兵庫、多様な住み方・働き方を選べる兵庫」というのはどうか。 ・ コロナ禍で食や健康が注目されているので、一次産業に関するナンバーワンが提示できればよい。 ・ 今までのように都市中心部に人が集まらない場合に、

	<p>既に存在する資産をどう使っていくのかなど、都市中心部をどう成り立たせていくのかという視点が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近畿圏では国土軸の地域でしか人口は維持できないと言われている。<u>その他の地域では人口が減るという前提で、その中でどう魅力を高めていくのか、数万・数十万人単位の都市部からの人口分散を、地域でどのように受け止めていくのかという議論だ</u>と思う。 <u>自分の居場所がある、自分の暮らしが見つかる、ということがとても大事</u>である。こういう暮らしをしたいと思ったときにその場所を選べる兵庫県だということを基本コンセプトとして打ち出せれば、4つの地域の話ともつながる。例えば、「私の居場所を見つけられる兵庫」など。 知事が「ボトムアップ型県政」と言っているが、県民主体という部分で通じる部分があるのではないか。<u>一人一人が主体</u>というのがよい。
--	---

2 めざすべき将来像について

<p>共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然の豊かな地域と対比することは、選択肢が多くあると提示できることにつながる。 4つの地域の中での、<u>人の暮らしやライフスタイルが見えにくい</u>。まちの将来像なのでハード中心に記載するということではなく、例えば、大家族で住んでいるのか、一人暮らしの人が多いのか、といった将来像を盛り込む必要もあるのではないか。 <u>将来像を見直す必要性を丁寧に説明すべき</u>。めざすべき将来像が変わったのか、そのアプローチの仕方が変わったのか。前回の改定時から8年間で何が起こったのかという背景や大きなトレンドの把握が重要。
<p>多自然地域の集落群</p>	<ul style="list-style-type: none"> テーマが「ふるさとを再生する」となっているが、<u>これからは再生するだけでなく新たなふるさと像を創っていく時代</u>なので、「多様なつながりで創る新たなふるさと」といった表現が考えられる。 「<u>ふるさと</u>」は、情緒的な言葉で、昭和的なふるさとに<u>戻るといったイメージを抱きがち</u>である。単純に「農村」と言う方が色が無くてよいのではないか。 農村は過去に戻って都市は先に進む、ということでは

	<p>なく、どちらも前に進むイメージが持てる言葉を選んでほしい。（「都市と農村」、「アーバンとルーラル」など）</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>海の姿が見えてこない</u>ので、言及しておく方がよい。 • 「ふるさと」については、<u>昔のふるさとに戻るのではない</u>ということはあるべき。 • 「ふるさと」には、地元、古いというイメージを持つが、「みんなのふるさと」みたいなイメージがよいのではないか。誰もが懐かしさを感じ、「ただいま」と言って帰ることができるような地域に魅力を感じる。
<p>地方都市</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地方都市は、多自然地域に暮らす人が買い物に来たり、都市中心部へ仕事に行ったりするので、<u>「地域の核」というよりは「中継地」というイメージ</u>。 • 「地方」という言葉に違和感がある。中央があつての地方という概念に基づく言葉だが、中央と地方でない関係性を作っていくべきだと考えている。「地方都市の中心市街地」ではなく、「地域の中心市街地」の方が分かりやすいのではないか。 • 地方都市は「<u>地域の中核都市</u>」である。<u>兵庫県の強みはこれらの都市であつて、単なる中継地ではない</u>。 • 兵庫県の魅力は、地方都市にあると感じているが、「個性きわだち誇りある地域の核」というのは分かりにくく、「歴史や文化、兵庫の資源が集積する兵庫県のハブ拠点」というイメージ。
<p>郊外住宅地</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 古い郊外住宅地では、都市に対する郊外住宅地という考え方はあまり無く、周辺の多自然地域の農産物を楽しんでいたり、山歩きを楽しんでいたり、職場も多自然地域にあるなど、住宅地の中で閉じていないことが多い。<u>住宅地の枠を超えた地域との連携を考える必要がある</u>。 • まちの機能を付加するといっても、人口密度が低い郊外住宅地ではキッチンカーやカフェなどなかなか成立しない。住民の多くが「まちを開くぞ」という気持ちを持たず住宅地内で閉じている限り、発展は難しい。 • 大きな考え方としては、<u>専用住宅の塊</u>というのではなく、多様性が必要。

	<ul style="list-style-type: none"> • 都心の方ばかり向いている郊外住宅地は、都心から離れるほど厳しい。新しい魅力や機能をどう付加していくか。<u>郊外住宅地のデグレード（劣化。価値の低下。）</u>がアメリカでは実際に起こっている。放っておくとそうなるとい問題意識を持った上で、<u>それを食い止めるために、多様性、周辺の働く場所、ライフスタイルなどの新しい提案を</u>していかないと、<u>生き残れない郊外住宅地が多発する</u>。 • 郊外住宅地の周辺を見ると解決のヒントが得られると、<u>いうことを書いておいてほしい</u>。
都市中心部	<ul style="list-style-type: none"> • ここでは「ベイエリア」という言葉が、いわゆる大阪湾ベイエリアという淡路側も含む表現があり、<u>都市中心部</u>という意味で使うべきかが若干気になる。 • 「進化し続ける」という言葉はよいが、もう少し具体的な言い方として、「兵庫の活力と魅力を高め続ける」などの方がよい。その場合、<u>「ベイエリア」というよりは、「市街地」とする方が適当</u>。 • 全国から見た場合と兵庫県の中から見た場合とでは、自分の住んでいる地域の位置づけは全く違うのではないか。姫路は浜手にある製鉄産業が市を支え、多くの方が働き、まちづくりの中心でもあるので、<u>「ベイエリア」という言葉でも悪くはない</u>。 • 「ベイエリア」は、<u>臨港地区をイメージしてしまうので、少し違うかなという印象</u>。 • 「ベイエリア」について、尼崎から姫路までは確かにベイエリアなので、<u>言葉の使い方としては問題ない</u>。 • 将来にわたって多くの人が集まり、それによるイノベーションを可能にするためのまちづくりをする、というイメージのはずが、デジタル田園都市のようなことになる、そうでなくても成立するということにもなる。<u>都市中心部で何をなりわいとして生活を成立させるのか、ある程度共通認識を持っておかないと、この話題の時はこれで成立して、違う話題の時はまた別のもの</u>で成立している、というようになってしまう。 • ベイエリアは、世界とも結び、兵庫県内のローカルな地域とも結びながら外向けに発信する「グローバルなハブ拠点」というイメージ。

3 取組の方向性

<p>共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 都市中心部以外の3つの地域にコワーキングやワーケーションなどで移住者を呼び込もうとするなら、例えば5Gの整備の後押しをしてIT関係者やクリエイターなどに働きかけるなどが考えられる。 • 多自然地域の集落群だけに小学校等のバリアフリー化が記載されているが、バリアフリー法の改正で公立小学校等が特別特定建築物に追加されたことに伴い、今後推進していくのであれば、<u>他の地域にも盛り込んでもよいのではないか</u>。避難所のバリアフリー化とも関係する。
<p>多自然地域の集落群</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 環境共生の部分について、今は里山の保全や環境学習の充実といったボランティア寄りの内容が書かれているだけだが、<u>森林や農地を活用したビジネスなども加えてはどうか</u>。 • これからはSDGsでCO2の排出権が取引される時代であり、企業活動の持続性のためにCO2の吸収や水資源の確保の場が必要不可欠となるので、<u>そういった資源を提供できる場所という考え方ができる</u>。 • 多自然地域の集落群のところで、<u>森や林業のことも入れた方がよいと思う</u>。災害やカーボンニュートラルなどとも関連する。
<p>郊外住宅地</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コワーキングやテレワークの記載があるが、通勤時間が無くなることで空いた時間をまちづくり活動やボランティアに使ってもらえるよう誘導することが必要。